

## 平成27年度 第1回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成27年9月16日（水）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 102 教室
- 出席者：11名
  - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
  - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
  - 道狭 浩子（ひろこ整骨治療室 院長）
  - 佐藤 和伸（佐藤代田整骨院 院長）
  - 小泉 利幸（三進興産 営業部部長）
  - 奥田 久幸（校長）
  - 岸本 光正（副校長）
  - 木下 美聡（学科長・議長）
  - 湯浅 有希子（学科教員）
  - 伊賀 久高（副校長付）
  - 松丸 浩子（事務次長）

### <本日の議題>

#### 1. 報告事項

- 柔道整復学科 教育カリキュラムについて
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
- 早期体験実習 アーリーエクスポージャーについて
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）について

#### 2. 検討事項

- 育成人材要件とカリキュラムの連動について
- 

#### 1. 報告事項

- 柔道整復学科 教育カリキュラムについて  
→「伝統柔整」「現代柔整」との説明を行う。
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの  
→昨年度の委員会で多く議題に上がった“マナー”“道徳”“態度”等を教える時間を、正規授業内に実施したことを報告。
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて  
→本校の専任教員が開業する接骨院に体験学習に行く。学生に配布しているポートフォリオを使用し報告。
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）について

→学園の方針に沿って本校が行っている取り組みを紹介

## 2. 検討事項

### <育成人材要件とカリキュラムの連動について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 明確ですばらしい。是非進めてほしい。
- 各学年での到達目標を明確にした方が、評価が行いやすくなるのではないか。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ 現在進めている方向性で進めて行く。</li><li>■ 平成 28 年度カリキュラムの中で実施できるものから実施をしていく。</li><li>■ 次回の会議の際に、進行状況を報告する予定。</li></ul> |
|--|

### <その他>

報告事項も含め、下記のような意見が出された。

#### ① 教育カリキュラムについて

- 「現代柔整」の中で「カイロプラクティック」「タイマッサージ」を在学中に教えるのは何故か。開業という視点では分かるが。
- カイロプラクティックを教える際には、危険性を必ず教えてほしい。

(回答) 卒業してから必要性を感じ習得する卒業生もいる。実際に施術する際に事故が起こらないよう“基礎中の基礎”を教えている。

- 「現代柔整」の表記で「カイロ」「タイマッサージ」と位置づけるのには疑問がある。この表記では現在行われている柔整では全員が「カイロ」「タイマッサージ」をやっているように思われる。むしろ、「現代柔整」とは超音波診断、様々な検査機器、物療機器を使用して行われている現在のやり方であって、「カイロ」「タイマッサージ」は補完療法に分類されるのでは。

- 「伝統柔整」という言い方にも疑問を感じる。

(回答) 今後検討していく

- 技術も大切だが“道徳”をしっかり教えてほしい。道徳心がかけていることが多い。現場としては、道徳をしっかり教えてほしい。

(回答) 学校としても道徳の必要性は重々理解している。今年度から正規授業の中にも“態度教育”を取り入れる。また、アーリーエクスポージャーの事前教育など、様々な場面で道徳の大切さを伝えている。

#### ② 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて

体験実習受入先のせんせいより

- 学生には良い刺激になっているようだ
- 患者さんとも話をしている。
- 学生から積極的に質問は出ないが、会話をして行く中で色々と質問が出てくる。

- 忘れ物が多い。
- 途中、集中力が欠けている。

(文責／松丸)

## 平成 27 年度 第 1 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 9 月 17 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 305 教室
- 出席者：12 名
  - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会）
  - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
  - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）
  - 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
  - 前田 千尋（カリスタ株式会社 院長）
  - 奥田 久幸（校長）
  - 岸本 光正（副校長）
  - 青木 春美（学科長）
  - 三村 聡（学科教員・議長）
  - 渡邊 靖弘（学科教員）
  - 伊賀 久高（副校長付）
  - 松丸 浩子（事務次長）

### <本日の議題>

#### 1. 報告事項

- 鍼灸学科 教育カリキュラムについて
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の 3 つのこだわり）について

#### 2. 検討事項

- 育成人材要件とカリキュラムの連動について
- 

#### 1. 報告事項

- 鍼灸学科 教育カリキュラムについて
  - 「日本鍼灸」「中国鍼灸」を基本とし「美容鍼灸」「スポーツ鍼灸」「レディース鍼灸」「高齢者鍼灸」を行うことを、実際のカリキュラム表を使い報告。
- 昨年度の改善事項の中でカリキュラムに反映したもの
  - 昨年度の委員会の中で、コミュニケーションについて多く話し合われた。それらことから入学時のオリエンテーションの際に“コンセンサスゲーム”を実施。グループ分かれ行い、早い段階でのクラス作りができるように持って行く。
- 早期体験学習 アーリーエクスポージャーについて
  - 5 院に受入をご協力頂き実施。学生に配布しているポートフォリオを使い説明。

- 敬心学園の取り組み スチューデント・ファースト（敬心学園の3つのこだわり）について  
→学園の方針に沿って本校が行っている取り組みを紹介

## 2. 検討事項

### <育成人材要件とカリキュラムの連動について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 評価される学生にとって一番ギャップを感じることは、客観的な達成率（学校の評価）と自分の達成率との差である。自分（学生）の自己評価も出させ、ギャップを理解させてほしい。
- 自己認知と他己認知とのギャップを埋めさせてほしい。
- 初めて来る患者様は、施術者に技術があるかどうかは分からなくても、スムーズにコミュニケーションが取れているかいないかは分かる。いかに患者様の懐に入って行けるかが大切。“聞き出す”コミュニケーションも養わせてほしい。
- 「態度」を卒業認定事項に入れることを、本当にできるかが疑問。  
(回答) 実際に「態度」項目が未修得で卒業認定がされない、ということにはならないと思う。ただ、そのような項目が卒業認定事項の中にあり、何らかの評価を学生に伝えれば、「態度」の大切さ・職場での必要性を学生に伝えられるのではないかと考えている。  
学科としても実技などの科目の中で組み入れて行きたい。
- 各科目の中で“真摯さ”など「態度」の事項を、どう学生に伝え教えるのか疑問。
- “接遇”などを専門の立場（例え：JAL アカデミーなど）から講師を向かえ講義をしてもいいのではないだろうか。
- 「態度」の項目ができないのは高卒新卒とは限らない。返って社会人経験がある方が難しい場合が多い。教育形態の中で“素直さ”を学ばせてほしい。
- 現場としては、まず“人として”の教育が大切

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ 現在進めている方向性で進めて行く。</li><li>■ 平成28年度カリキュラムの中で実施できるものから実施をしていく。</li><li>■ 次回の会議の際に、進行状況を報告する予定。</li></ul> |
|--|

(文責/松丸)